

公開シンポジウム「大学と地域社会のパートナーシップ-大学改革の中で-」のねらい

吉本, 圭一
第48回大会実行委員

<https://hdl.handle.net/2324/10660>

出版情報：日本教育社会学会大会発表要旨集録. 48, pp.332-332, 1996-10-04. The Japan society of Educational Sociology

バージョン：

権利関係：本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである



公開シンポジウム

「大学と地域社会のパートナーシップ—大学改革の中で—」のねらい

今日、多くの大学で改革が進展しつつある。その主要課題のひとつは、先般の生涯学習審議会でも冒頭に論じられているように「社会に開かれた大学」である。大学は、国際化・情報化・学習社会化などの時代的要請に応えていこうとしている。とくに、大学改革の中で、大学人は大学内部における教育の内容・方法の改善や研究の充実を図りつつある。さらに、大学外の社会との連携、特に個々の立地地域社会との連携を図ることが、同時に教育研究の質的向上にも結びつくものであり、その具体的推進が期待されている。

他方、地域社会においても、今日では生涯学習社会の形成や、国際化・情報化などを通じた発展が期待されており、行政的にもさまざまな事業が展開されている。

それらの改革や事業は、いずれも大学のみ、あるいは地方自治体単独では十分な成果をあげられないものであり、大学と地域社会との広範な領域・レベルでの連携が、次代の社会発展の鍵となっているのではないかと。ところが現実の両者の関係は、これまで必ずしも親密なものだったとはいえない。大学設置においては地域社会のさまざまな期待を受けて大学が作られるにもかかわらず、大学は一旦できあがると地域社会との関係を希薄にしていってしまうという傾向がみられる。

これまで、大学では、特に理工系の産学協同などの一部を除いて、大学人が大学と立地地域社会との連携を学問的に追究することは少なく、さらに大学運営の活動の一環として、いかに大学と地域社会との対等で互酬的なパートナーシップを構築するかという実践的課題には向きにくい。それは、大学と大学人が一般に普遍主義的志向を有するためでもあるが、同時に個別の地域社会との接点を持たないためである。

そこで、一方では、学問的にも、具体的な事例を通して、大衆化した大学における地域社会との連携の枠組みの定式化を図り、可能な発展の道筋を理論化するとともに、実践的にも、国際化に向けての大学と地域社会の取り組みの連携など、諸事業におけるパートナーシップの基盤づくりに寄与するために、今回の公開シンポジウムを企画した。つまり、九州地域における大学と地域社会の双方の多様なレベルの関係者のコミュニケーションを充実させることにより、大学の教育研究の質的向上にむけて多様な地域社会の資源を活用し、また地域社会の発展のために大学の教育的資源を有効に活用していくための、対話と信頼の基盤を形成していくことを目指している。

ありうべき大学と地域社会とのパートナーシップとは何か、現状での問題とは何か、どう課題を解決していくのか。本公開シンポジウムでは、教育社会学会での諸研究成果を踏まえながら、九州地区におけるそうした関係者からの具体的実践事例の報告を交えて、大学と地域社会とのパートナーシップの枠組み、現状、その可能性について、はば広い参加者とともに検討することを目的とする。

なお、今秋、福岡県が「第8回全国生涯学習フェスティバル」（愛称「まなびピア福岡」）の開催県となっている。本シンポジウムは、この全国生涯学習フェスティバルの趣旨にまさしく合致しており、そこで、その協賛事業として実施することとなっている。

（第48回大会実行委員会 吉本圭一）